万葉図書・情報室だより69号

中大兄皇子と乙巳の変

６４５年に起こった、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を滅ぼした政変を、以前は「大化の改新」と教科書等で呼んでいましたが、最近では「乙巳の変」と呼ぶのが一般的になりました。６４５年の干支（十干と十二支の組み合わせから成る）が乙巳だからです。ちなみに本年２０２５年の干支も乙巳にあたります。

律令制に基づいた、天皇を中心とする中央集権国家を作ろうとした政治改革（大化の改新）を行った中大兄皇子は、舒明天皇を父に、皇極・斉明天皇を母として生まれました。生年に関しては『日本書紀』舒明13（６４１）年10月丙午条に「東宮開別皇子、年十六にして誄たてまつりたまふ」と記載があることから、推古34（６２６）年の生まれと推察されます。同母のきょうだいに間人皇女と大海人皇子（のちの天武天皇）がいます。

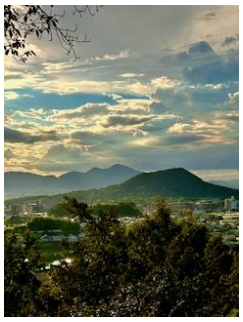
香具山は　畝火ををしと　耳梨と
相あらそひき　神代より　かくにあるらし　古昔も　然にあれこそ　うつせみも　嬬を　あらそふらしき

中大兄皇子（巻1・13）

―香具山は畝火山を男らしい者として古い恋仲の耳梨山と争った。神代から、こうであるらしい。昔もそうだからこそ、現実にも、愛する者を争うらしい。―

この歌は古の時代から伝わる三山の恋の争いの伝承に、当時の三角関係を絡めて詠んだ歌とされています。かつて、中大兄皇子と大海人皇子には名高い女性歌人・額田王を巡っての争いがあったという説がありました。しかし、『日本書紀』に記述がある中大兄皇子の妻の名前の中に彼女の名前の記載がないことから、現在ではその説は疑問視されています。

中大兄皇子は歴史上では、異母兄弟にあたる古人大兄皇子や自分の妻の父である蘇我倉山田石川麻呂、従兄弟にあたる有間皇子を死に追いやってきた冷徹な為政者という印象があります。ただこの歌の根底には、中大兄皇子自身の体験や思いも反映されているようにも思えます。冷徹な政治家としての一面と、思いどおりにいかない恋に悩む人間らしい一面が垣間見える歌といえるかもしれません。



甘樫丘から
畝傍山を望む

当図書室がある万葉文化館のまわりには、まさに乙巳の変の舞台となった数々の史跡が点在しています。蘇我入鹿を倒したとされる飛鳥板蓋宮跡や、入鹿の父・蝦夷との戦いに備えて中大兄皇子らが陣を張ったとされる飛鳥寺、その境内には入鹿の首塚と伝わる五輪塔がたたずんでいます。また、寺から西の方向には蘇我氏の邸宅があったとされる甘樫丘を望むことができます。

入鹿の首塚

遠い歴史の中に生きた人々に思いを馳せて散策してみるのもいいかもしれませんね。

（司書　藤原文代）

※万葉歌及び口語訳は中西進『万葉集全訳注原文付』による。

〈主な参考文献〉

『新版　大化改新　「乙巳の変」の謎を解く』
（遠山美都男／中公新書）
『萬葉集全歌講義一　巻第一、巻第二』
（阿蘇瑞枝／笠間書院）
『天智天皇』
（森公章／吉川弘文館）
『日本書紀3』
（新編日本文学全集4／小学館）

利用案内

図書室のご利用は無料です。
閲覧でのご利用になります。
開館時間…午前10時～午後5時半
休館日…月曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始・展示替日
コピーサービス…白黒　1枚10円
カラー1枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室
奈良県高市郡明日香村飛鳥10
0744-54-1850（代）

R7. 7. 2　VOL.69